



茶道裏千家ご厚意による呈茶席を設けました



理事長による開会挨拶



2014年8月21日(木)  
グランフロント大阪  
コングレコンベンションセンター  
参加者:約460名  
後援  
茶道裏千家 一般財団法人今日庵、  
公益財団法人関西文化学術研究都市  
推進機構

## 基調講演



### テーマ

## 日本人の精神力とは

### 講師 千 玄室

茶道裏千家大宗匠(15代・前家元)、  
ユネスコ親善大使

昭和39年千利休居士15代家元を継承。裏千家今日庵庵主として宗室を襲名。平成14年嫡男に家元を譲座し、千玄室に改名。「一盃からピースフルネスを」の理念を提唱し、国際的な視野で茶道文化の浸透と世界平和を願い各国を歴訪。現在の主な役職にユネスコ親善大使、日本・国連親善大使など多数。文化功労者国家顕彰、文化勲章など多数受章。

### 失われつつある日本人の精神力、 「和魂漢才」の心を忘れずに

幸福とは幸(さち)と福(ふく)という字を書きます。本当の幸せとは、「仕え合う」と書いて「仕合わせ(しあわせ)」になるのです。自分の前にお茶が出されたら、当然自分が飲めばよいところ、わざわざ隣の人に「如何ですか」と勧め合う。こうして勧め合うことによって、お互いの人間関係の和が生まれます。人のものをいただくにしても分け合う。「お先にいただきます」、「頂戴します」、そういう気持ちが、日本人の心構えとしてずっと長い間育まれてきたのです。お米一粒一粒を「有り難うございます」、「もったいのうございます」、そういう気持ちでご飯をいただいていたのです。「有り難い」。有り易いではなく、難しい。簡単に有り難うございますと言っていますが、最近の言葉には心が入っていません。本当に心や頭の先からつま先までしっかり「有り難うございます」と言えることが、人間として



の一番大事な教養であり、日本人の正しいあり方です。お箸にもきちんとした持ち方、使い方があります。そういうことをしっかりと教えることが、日本人の精神力を付ける大切なポイントになります。科学技術などすべてが発達した世の中であって、人間がロボットになってはいけません。人間にとってもっとも大切な「心」を家庭の中できちんと教えないといけないのです。「次の世代」や「未来」とよく言われますが、今をしっかりしなければ、未来も何もありません。

大和魂という言葉は源氏物語に書かれていますが、最近は軍国主義の表れみたいに言われ、戦後言わなくなりました。ヨーロッパ的なものに価値があり、それを身に付けた人がインテリみたいに思われ、洋魂洋才になってしまいました。実際の大和魂とは、優雅な奈良朝から平安朝の貴族文化、貴族社会の中で育った人の優雅さ、そして自分たちの心を顧みることが大事であるという日本人の大きな精神であります。和魂漢才の心をどうか忘れないでほしいのです。

### 人のために祈るということが、 人間として一番大事な心

日本人の心は情けであり、情の心を磨いて、本当の素晴らしい人間に成長していくために「道」があり、成り立っていく。茶道はそれを代表するもの。日本人の精神の一番大事な教えとして見ていただき、嗜んでいただくことが大切であります。

自分の幸せのために人の幸せを祈りましょう。人のために祈るということ自体が人間として一番大事な心なのです。自分の幸せのためにお互いに手を貸し合って支え合っていこうではありませんか。本当の真摯な気持ちが生まれてこそ、初めてひとつの大きな「輪」ができ、その輪こそが本当の「和」なのです。そこに本当の幸せが生まれ、初めて未来が見えてくるのです。



世界には発達段階や文化などが異なる社会が混在しています。人類がこのままの形でそれぞれの幸福観を追求するとしてもすべてを成就することはできません。持続可能社会の構築に向けて、多様な幸福観がうまく揉めながら共存し合うような多様性を包含する社会や幸福観の構築が出来るのでしょうか。

## 講演&パネルディスカッション



テーマ

# 持続可能社会と私たちの幸福

## 経済的豊かさ以外の軸をもつこと、自己の幸せの尺度や価値観を大切に

「江戸時代は調和のとれた資源循環型社会の究極の姿であった」と指摘する笠谷氏は、「日本は欧米の物質文明に比べて貧しいが決して悲惨でなく、人々の生活は簡素であるが満ち足りており、十分に幸せである」という当時の日本を訪問した外国人の感想を示唆として、「知足」という概念を見直そうと提唱しました。稲場氏は、「東日本大震災を契機に幸福観に変化が起こった」と指摘します。無縁社会から一転して目覚めた利他的遺伝子を意識して、「無自覚の宗教性」をベースとした、物質主義ではない、倫理・価値観に基づく社会を作ろう」と呼びかけました。「所得は向上したが幸福度は高まっていない」という草郷氏は、水俣やプータンでの実地調査を通して近代開発モデルの再検討が求められているとし、「経済的豊かさ以外の軸を持つこと、自分の持っている幸せの尺度や価値観を大事にすること」の重要性を指摘しました。「いのちの電話」の活動を通して様々な悩みの相談を受けてきた平田氏は、「社会から孤立した方々が増えている」という現場を目の当たりにして、人と人とがつながること、寄り添って話を聞くこと、共に悩み共に考えるという、人として当たり前のことが何より大切であると話されました。



「江戸時代は調和のとれた資源循環型社会の究極の姿であった」と指摘する笠谷氏は、「日本は欧米の物質文明に比べて貧しいが決して悲惨でなく、人々の生活は簡素であるが満ち足りており、十分に幸せである」という当時の日本を訪問した外国人の感想を示唆として、「知足」という概念を見直そうと提唱しました。稲場氏は、「東日本大震災を契機に幸福観に変化が起こった」と指摘します。無縁社会から一転して目覚めた利他的遺伝子を意識して、「無自覚の宗教性」をベースとした、物質主義ではない、倫理・価値観に基づく社会を作ろう」と呼びかけました。「所得は向上したが幸福度は高まっていない」という草郷氏は、水俣やプータンでの実地調査を通して近代開発モデルの再検討が求められているとし、「経済的豊かさ以外の軸を持つこと、自分の持っている幸せの尺度や価値観を大事にすること」の重要性を指摘しました。「いのちの電話」の活動を通して様々な悩みの相談を受けてきた平田氏は、「社会から孤立した方々が増えている」という現場を目の当たりにして、人と人とがつながること、寄り添って話を聞くこと、共に悩み共に考えるという、人として当たり前のことが何より大切であると話されました。

## 幸福とは、捕まえたと思うと消えてしまう青い鳥のようなもの

現代の世界には政治経済の状況や文化の形が異なる様々な社会が、時には相互に密接に、あるいは希薄に関わりながら、バランスの取れない難

しい形で混在しています。そのような社会がそれぞれ内包している幸福観、幸せについての考え方も多様ですが、この

ような社会に生きる人々がこのままの形で幸福を追求していくと、間違いなく地球のキャパ

シティを超えてしまい、また幸せの追求が不幸をもたらすことすらあるかもしれません。幸福とは、持続可能性などを考える際に初めて意味をもつものであり、捕まえたと思うと消えてしまう青い鳥のようです。持続可能性は、個人レベルで命をつなぐというミクロな側面から、地域社会や地球などマクロな側面まで、様々な観点をトータルに連続的に捉える必要があります。多様な価値観があるなかで、良し悪しでなく、他人に耳を傾け、意識すること、他人を不幸にしないこと、あるいは自分が不幸にならないことを追求することが重要なヒントになるかもしれません。このとき、日本の道徳、倫理、行動規範のような、現代では見えにくくなっているものを再評価して広げていくことも重要な意味をもつものです。幸せとは何か、世界を見渡して相対的に経済的豊かさを実現している日本が、心の余裕をもって考え、発信出来ることではないでしょうか。



文責：高等研事務局

## 稲場 圭信



大阪大学大学院人間科学研究科准教授  
宗教の社会貢献活動や利他主義などを研究。  
全国の避難所等を集約した「未来共生災害  
救援マップ」を構築しWeb上に公開。

## 笠谷 和比古



国際日本文化研究センター研究部教授・  
伝統文化総合研究プロジェクト長  
専門は歴史学(日本近世史、武家社会論)。  
近世の国制と天皇制、武士道の思想と行動  
形態を研究。

## 草郷 孝好



関西大学社会学部教授  
専門は開発研究(人間開発論)とアクションリ  
サーチ。国内外の生活現場に足を運び、実践  
的協働研究を展開。

## 平田 眞貴子



京都いのちの電話 常務理事  
眠らないダイヤルとして様々な相談を受け付  
ける「京都いのちの電話」の活動に、開局から  
30年以上に渡り従事。

## コーディネーター

## 小泉 潤二



国際高等研究所 副所長・大阪大学特任教授・  
日本文化人類学会前会長・  
国際人類学民族科学連合(IUAES)事務局長  
文化人類学、中南米研究、解釈人類学、グロ  
ーバル化、社会経済変容、コンフリクト研究、  
国際協力など多方面で活動。

所属・役職はフォーラム当時のものです